



「第11回まちづくり講演会」を実施しました

公益財団法人前橋市まちづくり公社 まちづくり推進課

前橋市まちづくり公社の主催、群馬県と前橋市の後援による第11回まちづくり講演会が令和6年9月12日(木)に前橋中央公民館ホールで開催されました。当日は会場に一般の方や行政関係者等、70名の参加者が集まりました。

市民団体等が主体となったまちづくり活動の促進、新たなまちづくりの担い手の発掘と育成を目的に本講演を開催しました。

第11回目となる今回は、群馬大学大学院理工学府教授の金井昌信氏を講師に迎え「防災まちづくり～災害対策をUnlearn～」と題し講演をしていただきました。

桐生市出身の金井教授は、災害社会工学を専門とし、災害犠牲者ゼロを実現することを目的に、実践的な研究を行っています。地域住民が地域独自の緊急避難方法を策定する取組や、小中学校における防災教育の支援を行っています。

金井氏からは、防災が重要な社会課題の一つとして認識され、地域独自の避難計画や災害時要支援者の個別避難計画策定、避難所運営方法の検討、災害備蓄など、防災まちづくりの観点から、自治会等の単位で地域防災活動を行い、地域の防災力を向上することが求められている中、これまでの対策の課題を指摘し、「本当に取り組むべきこと」とは何なのかについて、参加者の皆さんと一緒に考えながらご講演いただきました。

印象的だったのは、防災に不正解はあるものの、「唯一絶対の正解」はない、自分自身にとっての正解が、他者の正解とは限らない。ということでした。個別具体的な知識の提供は限界があるため、自分自身に適した対応策は、自分で考えないといけないということです。

また、混同しがちな「緊急避難」と「避難生活」は別物と考え、自分自身で考えて行動しなければならない、ということや、逃げ遅れという最悪な状況から想定し、各自に適した選択肢を複数考えておくということなどを、具体的事例を交えながらご説明いただきました。

今後の防災対策は選択と集中が重要で、本当にやるべきことをやり、やってないことで生じた不利益は受け入れるという覚悟を持つこと、できることを積み上げることで、支援や手間が必要なところに集中投資するために「面倒をかけない」ことも協力行動になること、ということも印象に残りました。

参加者の方にとっても、金井教授から問いかけがあったり、クイズ形式で進めたりと、コミュニケーションを取りながら身近に迫る問題を分かりやすくご説明していただき、より理解が深まったと思います。

前橋市まちづくり公社では今後も、講演会などを通してまちづくり活動の促進や啓発事業を進めて参ります。



金井 昌信氏



まちづくり講演会の様子